

中世に活躍した「南市商人」

南市を拠点とする南市商人

中世の高島地域では、安曇川町の南市を拠点としていた、「南市商人」とよばれる商人たちが活躍していました。この南市商人の存在は「今堀曰吉神社文書」の中の一部で確認できます。

南市商人は小浜との通商を盛んにこなっており、海産物を主とした品物を受け取りに小浜まで足を運びました。その際には、今津と小浜を結ぶ「九里半街道」を通るルートを利用したと言われています。南市商人はこの九里半街道



を利用した通商独占権を主張し、これを巡って現在の東近江市を拠点とする保内商人との相論(争い)にまで発展しました。この相論は、保内商人が荷物を小浜へ輸送しようとしたところ、南市商人がその荷物を押収したことに始まり、保内商人が訴訟を起こしたことで、両者の間には緊張関係が生み出されました。結果的には保内商人の九里半街道通過が認められています。

五箇商人と呼ばれて

南市商人は湖東との通商にも尽力し、湖東の小幡・薩摩・八坂・田中江の商人たちと並んで「五箇商人」と呼ばれるようになりました。その中で南市商人は小浜から運搬されてきた海産物を湖東方面に運搬したり、湖上交通を利用して京都に出て売るといった役割を

担っていました。なお、五箇商人は先述した保内商人と南市商人との九里半街道を巡る相論にも南市商人を含む商人団として参加したと伝えられており、強力な連携体制がとられていたことが伺えます。

南市での売買記録は、朽木家第十二代当主の朽木晴綱の時期に書かれた「御元服付料足下行帳」の中に残されています。そこには布、タコ、水鳥、鮎、山鳥、アワビなどが売買されていたことが記されており、各地から集められた特産物に加え、地元で採れた特産物も扱われていたことが分かります。

大溝城下へ移転

その後、織田信長の甥である織田信澄が居城を新旭町の新庄城から大溝城へ移すと、南市も大溝城下へと移されました。大溝城のすぐそばには、勝野津があり、明神崎と長宝寺山が切り迫った立地で、交通の要衝となっていました。



市場が存在したと考えられる場所

た。こういった環境もあり、南市商人たちは城下の発展に貢献することになりました。
 圖文化財課 ☎(32) 4467

編集雑感

みんなのページにたくさんのご応募をありがとうございます
 *寒さが増す時期ですが、皆さんの投稿に“ほっと”温かくさせていただいています。さて、冷えは身体の大敵です！年々、無理をすると身体に影響が出やすくなったと感じていましたが、最近はとくに不調がやすい…その原因が冷えからきていることに最近気づいた私ですが！心がけるようになったことは、基礎代謝をあげることです。ゆっくりお風呂に入った後のストレッチ等を毎日行っています。皆さんも温活に取り組み、平成最後の冬を乗り切りましょう！(A)

広報たかしま

平成31年

2

月号 No.229

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
 〒501-8501 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
 http://www.city.takashima.lg.jp
 t:info@city.takashima.lg.jp